

新健保組合の 平成24年度予算決まる

4月1日の合併により発足の三井住友トラスト・グループ健保組合の平成24年度予算が、組合会において可決承認されました。その内容をお知らせします（平成24年4月2日健保公告第3-2号）。

平成24年度 一般勘定予算概要表

科目	予算額(百万円)	1人当たり額(円)
保険料	11,025	505,624
国庫補助金収入※1	3	121
雑収入・その他	720	33,053
経常収入① 計	11,748	538,798
事務費	177	8,096
保険給付費	5,194	238,227
法定給付費	4,945	226,783
付加給付費	249	11,444
納付金	5,335	244,682
前期高齢者納付金	2,203	101,034
後期高齢者支援金	2,433	111,567
退職者給付拠出金	699	32,078
老人保健拠出金	0	3
保健事業費	471	21,585
連合会費・その他	7	340
経常支出② 計	11,184	512,930
経常収支③=①-②	564	25,868
調整保険料	221	10,113
繰入金(別途積立金取崩)※2	449	20,601
財政調整事業交付金・その他	46	2,110
その他収入④ 計	716	32,824
財政調整事業拠出金・その他	221	10,115
予備費	1,059	48,577
その他支出⑤ 計	1,280	58,692
その他収支⑥=④-⑤	(564)	(25,868)
収支差引額⑦=③+⑥	0	0

※1 特定健診・特定保健指導に対する国庫補助です。
※2 収入不足の場合に別途積立金から繰入れる額です。

平成24年度 介護勘定予算概要表

科目	予算額(百万円)	1人当たり額(円)
介護保険料	1,052	87,209
繰越金等	50	4,167
収入計①	1,102	91,377
介護納付金	1,063	88,156
その他	39	3,221
支出計②	1,102	91,377
収支差引額①-②	0	0

健康保険 合併後の安定運営を目指して

新健保組合の初年度予算の予算総額は12,464百万円（経常収入①+その他収入④）となっています。

合併後の規模に応じて検討した支出項目のなかでは、高齢者納付金の増加が顕著です。高齢化の進展により全国の多くの健保組合において納付金負担は増加傾向にあります。特に当健保組合では前年度合算比で、1,466百万円増加の5,335百万円と大幅な増加となっています。各納付金項目とも増加しており、主要な要因としては、2年前の精算による追加支払、計算根拠となる1人当たりの医療費の増加、および合併に伴う前期高齢者納付金の計算倍率の拡大等です。特に今年度は特殊要因で、2年前の人員の増加による変動が著しかったため、精算額について納付金全体で約464百万円の追加支払が発生したことが影響しています。

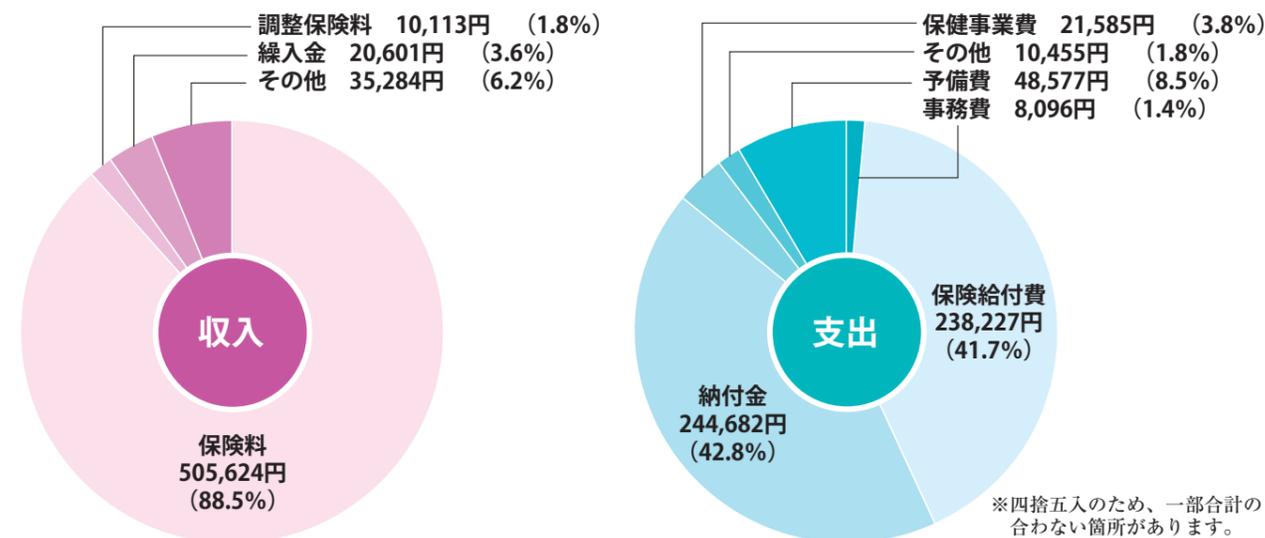
その他、保険給付費は前年度実績を勘案し5,194百万円、事務費は人件費・システム費用等で177百万円、および保健事業費は人間ドック等の疾病予防事業中心に471百万円を計上しています。経常支出合計は、11,184百万円となっています。

このような支出額をできるだけ安定してまかなえるよう、保険料率を7.5%と設定し、初年度には11,025百万円の保険料収入を見込んで

24年度予算を1人当たりでみると…

予算1人当たり総額 571,622円

() は収支の割合



※四捨五入のため、一部合計の合わない箇所があります。

保険料負担割合 (単位：%)

被保険者	事業主	合計
2.7	4.8	7.5

保険料率 (単位：%)

一般保険料率		調整保険料率	合計
7.3540		0.146	7.5
基本保険料	特定保険料		
3.8599	3.4941		
被保険者自らのための費用	高齢者等の医療を支える費用	高額医療費等の共同負担事業に拠出する費用	

剰余金の状況 (単位：百万円)

	24年3月末残高	23年度剰余金	合計
中央三井トラスト・グループ	649	591	1,240
住友信託	1,001	749	1,750
計	1,650	1,340	2,990

平成24年度に実施する健康づくり事業

①人間ドック・被扶養者健診の費用補助

人間ドックについては30,000円を限度（別途指定のがん検診に10,000円を限度）として、被扶養者健診は自己負担額3,000円を超えた分に対して補助を行います。

②特定健診・特定保健指導

40歳以上の被保険者・被扶養者を対象に実施。

③無料歯科健診

年2回ご利用いただけます（詳しくは8ページをご覧ください）。

④「ファミリー健康相談」等の電話相談

無料で医療や子育て、介護などの相談ができます（詳しくは8ページをご覧ください）。

⑤機関誌等の発行

『Sawayaka』を年2回、『人間ドック健診案内』等（随時）を発行・配布します。

⑥育児図書の配布

初産者（被保険者・被扶養者）に対し、『赤ちゃん和妈妈』を月1回（1年目）、『1・2・3歳』を年4回（2年目）を配布。

⑦がん検診の費用補助

事業主が実施するがん検診について、事業主へ費用の一部を補助します。

います。これに旧住友信託健保の23年度収支残額を691百万円見込み、経常収入合計額11,748百万円とし、564百万円の黒字予算としました。

その他収支では、万一の収支不足に対応するため449百万円を別途積立金からの繰入で計上しています。

このように新健保組合の初年度予算は経常黒字としていますが、黒字幅は保険料収入の約5%、また保険給付費や高齢者納付金の約10%程度にすぎません。経済環境の変動による保険料収入の変動、中高年齢層の増加による保険給付の急増、増加傾向にある高齢者納付金と、これら支出増に応じて必要となる法定準備金の積増し等、決して財政運営に余力があるわけではありません。今後も収支動向を注意深く管理してまいります。

介護保険 介護保険料は1,052百万円

介護保険料収入は、介護保険料率を旧住友信託健保組合は0.9%、旧中央三井トラスト・グループ健保組合は0.95%から、新健保組合では1.15%に引き上げたため、1,052百万円となります。これは介護納付金1,063百万円との収支では、11百万円不足となりますが、前期からの繰越が両健保組合合わせて50百万円程度見込まれるため、均衡が図られます。